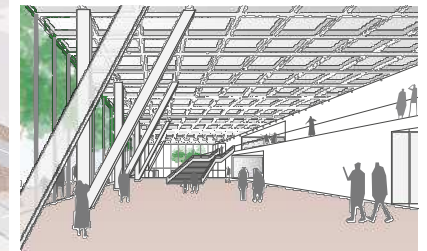




広場を取り囲む東西棟と区民会館の配置計画、敷地周辺の緑・屋上緑化による緑あふれる外構計画



広場イメージ(1階より望む)



区民会館ホワイエイメージ(北側より望む)



執務室・待合スペースイメージ

■人がつなぐ、歴史・環境・風景がつながる『世田谷リング』

現庁舎・区民会館・広場は、区民をはじめ多くの人の幾多の体験が積み重なっている場であり、60年以上に渡るケヤキの成長と共に、区民自治が育まれ発展してきました。

本計画は、新しい時代にふさわしい「地域コミュニティ」を醸成する交流の「空間づくり」を「まちづくり」として捉え、3つの方針で取り組みます。

- ・自由な交流を促す「広場の継承発展」
- ・交流体験を継承する「区民会館の保存再生」
- ・広場に寄り添い、交流と防災を高める「低層型庁舎」

これら全てを有機的につなぐ空間を「世田谷リング」として計画します。



「世田谷リング」でつながる新庁舎と広場のイメージ

■周辺の地域特性と調和した庁舎

計画地周辺には「豪徳寺」や「松陰神社」等の緑あふれる歴史的な景観があり、近接して住宅や国士館大学等の閑静な環境に面しています。

そのため、周辺への視線や騒音への配慮、周辺環境との調和が求められます。

本計画では、周辺環境に対し緑を設け、イベント利用を行う広場を敷地中央に配置します。また、既存建物の空間特質の要素である広場、区民会館、ケヤキ並木、池、ピロティなどを継承・発展させ、次世代に引き継がれる世田谷らしい風景として計画します。



区民を迎え入れるゲートとなる東棟のピロティ



新たにメインアプローチとなる西棟のピロティ

■21世紀半ばを支える庁舎

これからの庁舎はICTにより効率化が進む一方で、多種多様なニーズに応える対面型のサービスの重要度が高まります。

そのため、様々な活動のつながりを誘発し、コミュニケーションを高め、職員と区民の協働の促進が求められます。

本計画では低層型で大部屋の横連携がしやすい庁舎とし、以下の3つの視点で整備を進めます。

- ・環境負荷の低減、省エネ設備等によるLCC、LCCO2の縮減
- ・フレキシブルで利便性が高く、居心地の良い執務・共用空間の創出
- ・災害に強く、安全安心な構造・設備計画



区民、行政、議会機能が独立しながらも相互に連携する新しい庁舎

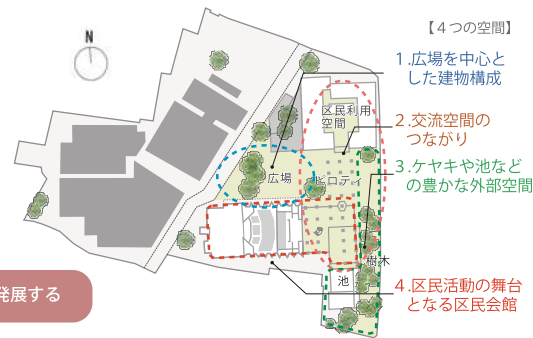


■基本の方針1 区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎

- 分棟型の建物を繋ぐ「世田谷リング」によって全体として一体感をもたせ、区民利用の多い1、2階の機能的な連携を図るとともに、区民交流拠点を集約し、区民が訪れやすく、利用しやすい構成とします。
  - ①中央の広場を囲むように本庁舎・総合支所・区民会館をリング状にバランスよく配置し、低層階における区民交流機能・区民協働拠点の集約により、来庁者の交流活動を促進
  - ②東西南北の各方面に緑・広場・ピロティを配置し、どの方角からも自由に行き来が可能な地域とのつながりを意識した計画
  - ③議会部門は、独立性とセキュリティを確保しつつ、区民に開かれた議会、区民自治の意識を高める構成
- 区民会館ホールを保存・再生し、東側道路からのアプローチや広場の構成を含めて、現庁舎等の空間特質の特徴を継承します。

・下記の4つの空間に対し、「現庁舎の空間特質要素」を抽出し、「継承」的な視点や「発展」的な視点により計画

- ①広場を中心とした建物構成
- ②交流空間のつながり
- ③ケヤキや池などの豊かな外部空間
- ④区民活動の舞台となる区民会館



■基本の方針2 区民の安全・安心を支える防災拠点となる庁舎

- 防災性・連携性・可変性に配慮した計画とし、災害対策施設としての機能向上を目指します。
  - ①広域避難場所の「国士館大学」をはじめとした、周辺施設との災害時の連携を踏まえた配置計画
  - ②災害時に様々な機能に転用可能なフラットなスペースを確保する計画
  - ③区の災害対策の中枢管理機能を果たすための必要な機能を備えた計画
- 安全性を最優先とした建物とし、また建替計画においても安全性を確保します。
  - ①区の業務継続性能を最優先とした耐震性能の確保と工事中の災害対策機能の継続
- 広場を中心とした低層型庁舎とリングテラスで、安全性を強化した計画とします。
  - ①リングテラスによる避難動線の分散
  - ②避難動線が短縮化できる低層型庁舎

■基本の方針3 すべての人に分かりやすく、利用しやすい、人にやさしい庁舎

- すべての方向からのアプローチ動線を確保します。
  - ①既存の東、南、北のアプローチ動線は継承し、新たに西側にアプローチ動線を計画
  - ②段差のある西側アプローチは、エレベーターを設置する等、ユニバーサルデザインに配慮
- 広場を中心に区民利用スペースを設けた分かりやすい施設構成と「リングテラス」による東西連携で横つなりの使いやすい庁舎とします。
  - ①広場・リングテラスから全棟が見渡せ、東西に繋がりを持った、来庁者、職員ともにわかりやすく連携のとりやすい配置
  - ②広場を中心に低層階に区民窓口、区民交流機能・区民協働拠点を集約し、来庁者が訪れやすく利用しやすい設え
  - ③東西を結ぶ「リングテラス」により区民利用の多い1、2階がすべてつながり、目的の場所に最短でアプローチ可能

■基本の方針4 機能的・効率的で柔軟性の高い庁舎

- シンプルかつ効率的な配置計画とし、執務空間を低層に配置し、将来の変化にも対応しやすいフロア構成とします。
  - ①上下移動が少ない低層型庁舎
  - ②広くまとまりのあるフロア構成
  - ③多様な働き方に対応できる柔軟性の高いオープンな執務空間

■基本の方針5 環境と調和し環境負荷の少ない持続可能な庁舎

- 外壁の構成など建築上の工夫によるエネルギー消費量の低減や、中間期における自然換気システムなど自然エネルギーの活用により、環境負荷が最小となる庁舎とします。
  - ①環境負荷を最小化できる低層型庁舎
  - ②中間期の心地よい風が通り抜ける快適な庁舎
  - ③災害時にも活用可能な省エネルギー設備の導入
  - ④周辺の自然資産を把握し、その恵みである生態系を身近に感じられる自然共生型の外構



■広場を中心とした建物構成と建物をつなぐ「世田谷リング」